

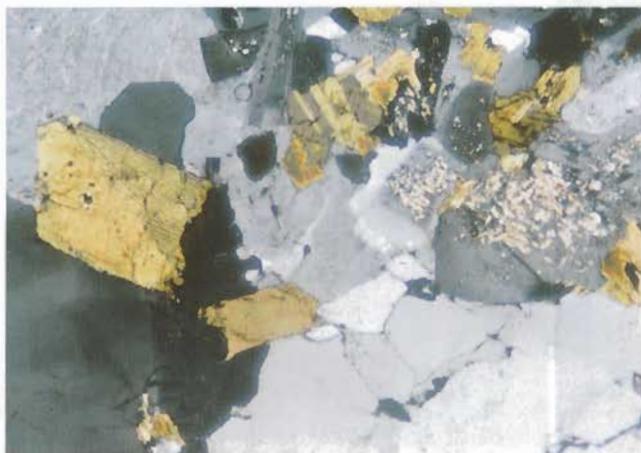
特集 3

学内、石物語

理学部地史学講座

沖 村 雄 二

広島大学を象徴するかのように、そして原爆の証人としてその偉容を誇っている旧広島文理科大学・旧理学部の建物は、これから先どのような運命をたどるのであろうか。理学部の移転によって忘れられてしまいそうなこの建物には、学内では唯一と言ってよいのであるが、多くの石材が使われている。壊されてしまうかもしれないこの石材について何か記録を残しておかなくてはというのがこの特集のきっかけである。学内には、この建物以外にも景石等に岩石が使われているが、これも記録がないためこれらの石材についてメモを付した。



「議院石」の岩石顕微鏡写真 横約 3 mm

現在、わが国が世界一の建築石材輸入国であることを反映してか、広島市内でも世界各国の建築石材を見ることができる。たとえば広島市役所玄関ホールは、トイレにいたるまでフィリピン産のカピストラーノと呼ばれる大理石で飾られ、厚生年金会館ロビー正面にはイタリア産の有名な大理石ピアノコカラ

世界に誇る石材輸入国

旧理学部1号館北面に見られる風化



いろいろと手段を講じて、この建物の石材の記録を探したのであるが、文部省大臣官房建築課の西村勝文部技師をチーフとして設計され、一階の腰下及び正面入口付近の洗いだし石造部分のデザインに意が用いてある（日本学校建築、文教ニュース社、昭和五八年）

旧文理科学院
理学部1号館

ラが清楚な美しさを誇っている。昨年、異例とも言える消費国での石の国際共進会（ジャパン・ストンフェア'91）が、世界の石材業社（海外から一六五社、日本二〇二社）を集め千葉県幕張で開かれたのも、その実状を反映したものであろう。

学の特徴は、国会議事堂の玄関
内装石材とがある。前者の岩石
は、腰下すべての部分に使われ
て重厚な感じをもたせていて外
装石材と、今は立ち入りができ
なくなっている玄関内部周辺の
内装石材とがある。

石材が実際に使用され、その上
棟式（昭和二年）から竣工（昭
和一年）までのさなかにあつ
て、昭和六年に完成した文理科
大学の建築石材選びに、その資
料が全く参考にされなかつたと
は考えられない。広島文理科大
学本館に使用されている石材に
は、

といふ記録以外にはなにも見つかっていない。
ただし、国会議事堂の建設は基本計画か
ら五〇年を費やした国の大事業で、数次にわ
たる調査や試験を通して、国内のほとんどの
石材が実際に使用され、その上



広島大学正門の花崗岩門柱

の柱や二階以上の部分の外装石材で、広島県倉橋島産の別名「議院石」とも呼ばれている（旧理学部I号館の北面には原爆の熱線の影響が考えられる風化の跡もみとめられる）。おそらく広島大学正門の門柱もこの石材であろう。

後者はいわゆる大理石で、当時の最も有名な大理石産地である岐阜県赤坂産石灰岩、商品名が「更紗」とよばれているものの特徴をもつていて。保存は少し悪いのであるが、フズリナをはじめ多くの化石を含む、いろいろな石灰質岩の礫からなり、この色調と模様を持つた大理石は、わが国では他にはみとめられない。赤坂から産出した大理石は、議事堂では中央広間の床に美しいモザイク模様を描いて使用されている。



旧理学部玄関内部の大理石「更紗」

中央図書館 (新キャンパス)

正面玄関の左手、黒光りのする岩石に、前図書館長陣崎先生筆の広島大学附属図書館中
央図書館の文字が刻まれている。この岩石は、
南緯二三度、南アフリカから輸入された両輝
石斑岩である（ベルファーストと呼ばれて
いる石材）。この岩石が中央図書館の景石の材
料に選ばれた理由はわからないのであるが、
斑岩として世界最高値だと言われて
いる。これは始生代のものとされていること
からして二五億年よりも前に形成された岩石



中央図書館の景石「ベルファースト」



旧工学部の門柱

懐かしい千田町の工学部の門柱。広島大学工学部と刻まれた（工学部長を務められた中江大部先生の筆といわれる）。白い大理石がはめられた赤煉瓦の門柱が、東福利会館の前に佇しく建っている。この大理石は、保存は悪いが石灰藻を主体とする生物石灰岩の組織をとどめており、秋吉石灰岩地域で生産された

で、こんなに古い岩石はもちろん日本にはない。類似の塩基性岩が工学部の事務棟の前、やはり黒光りのする小さな景石として使われているが（「ご存じない方も多いのです？」）。工学部の文字がどなたの筆か、どこの産の岩石が利用されたのかについて、工学部の庶務係の方々にいろいろと探していただいたのであるが、いまだに何の手がかりもえられていな。記録を残すということが如何に大事かをあらわしているように思える。



理学部の景石

両学部の玄関前の景石には、広島県下にはかなり広く分布している中生代白亜紀の火山岩の一つ、「流紋岩」が使われている。理学部

「薄雲」とよばれる大理石にほぼまちがいなし。ここに置かれるまでの経緯を調べて、記録に残して置きたいものである。風化作用にたいしてあまり抵抗力をもたない岩石なので、保存の方策が必要なのではないだろうか。



教育学部の景石

は元学長の川村智次郎先生の揮毫、教育学部は移転当時の学部長山本多喜司先生の書であるが、この景石の石材選びについては両学部とも深いわれはないようである（理学部の景石は向原町で採取された）。理学部の場合、東千田町の旧理学部の前に埋もれていた花崗岩、原爆の悲惨さを見たであろうこの岩石が、一度は候補にあげられたことがあるだけに残念な気がしてならない。

訂正のお詫び

二三期六号に次のとおり誤りがありましたのでお詫びして訂正します。

二二頁 一段落九行目 経済学部	小林栄統	正
二六頁 配分一覧表	小林栄統	誤
小林栄統	正	誤